



NON-GM NEWS

NON-GM 委員会ニュース 2020 年度 -Vol.2 2021/02/01 週発行

NON-GM 委員会では 10 月に遺伝子組み換えと民主主義がテーマの映画「たねと私の旅」の上映会を行いました。コロナ禍の中ではありましたが、会場の人数制限一杯の、大勢の組合員の参加がありました。皆さん熱心に映画を見て、アンケートに熱い感想を書いてくれました。生活クラブの組合員として自分にできることを今一度考える機会となったようで、上映の成果を大いに感じさせてもらいました。

また、NON-GM 委員会では今年度の方針に「消費材 StepUp 点検」を行うことを掲げており、新型コロナウイルス感染症の蔓延のため少し遅れていますが、3 月末に近江農産組合（滋賀県）の「刻みすぐき」の点検を行う予定です。現在、それに向けて学習会を進めているところです。

今回のニュースでは、映画の上映会と StepUp 点検について委員会メンバーからのメッセージと、映画の上映会に寄せられた感想をいくつかお届けします。上映会では感想以外にも質問等を書いてもらってお話しする時間を設けましたが、見落としていて答えられなかったものがありました。このニュースに書いておきますのでご覧ください。

(NON-GM 委員会担当理事・茨木ブロック 池辺)

消費材 StepUp 点検

消費材 Step 点検の実施のために事前学習が始まりました。学習の中で「普段は組合員と接する機会のない生産者といつも食べている組合員が直接対話をして確認するところがあり、生活クラブはこのしくみを“持続可能な生産と消費”推進制度と呼び、らせん階段を登るようにステップアップを進める」とありました。

組合員と生産者でよりよい消費材を育てるために前だけを向いて進めるのではなく、ぐるぐるとステップアップするというのが関わるすべての人が主体的に参加する事になり継続していくのではないかと思います。

報告会では刻みすぐき Step up 点検の成果を皆さんと共有したいです。

門真ブロック 目崎



今回、近江農産のきざみすぐきの Step Up 点検に参加させていただくことになりました。

Step Up 点検は、一般の見学工程が決まっている工場見学などとは違い、組合員が見たいところや確認したいところを伝えることができます。

これは、歴代の組合員と生産者が、一緒に開発を続けてきた信頼関係があるからです。

今回私もその一人にならせていただくということで、緊張や責任を感じています。

しかしながら、大好きな消費材が“おいしく本来の食材の味が活きている”、“安全へのこだわりがとても強く情報開示もされている”、“コストパフォーマンスが高い”と言われる理由が何なのか知ることができる機会になるのではないかと楽しみにしています。

終わったら、その秘密を皆さんにお伝えできればと思っています。

茨木ブロック 赤木

委員会活動に参加しませんか？

NON-GM 委員会では、遺伝子組み換えやゲノム編集について組合員の皆さんにお伝えする学習会を企画、実行しています。映画の上映もその一つです。紙芝居や人形劇など、色々な工夫をこらしながら楽しく賑やかに活動しています。少しでも興味がありましたら、ぜひ委員会の活動に参加してください。難しく見えませんが、自分たちも学びながらの活動です。まずは月に 1 度の会議をのぞきにきてみませんか？

●お問い合わせ：組織運営課 (072-641-5547)

「たねと私の旅」アンケートより

- ◎GM のタネが大企業に支配されている現実や、表示の現状に驚いた。
- ◎子供達の未来について考えた。
- ◎難しいテーマだが料理など綺麗な映像で分かりやすく見ることができた。
- ◎行動し、仲間を増やせばこの世に変えられないものはない。
- ◎表示を求めるのが民主主義というのがびっくりした。企業の力を見せつけられたが市民の力も広がっていくのが理解できた。
- ◎組織を作って行動、発信することが大切であるとわかった。
- ◎GM 食品を食べたくないし、子供にも食べさせたくない。
- ◎分かりやすく楽しくみられた。その中にメッセージがあり、多くの人に見てもらいたい映画だと思う。
- ◎食について深く考えられる映画だった。
- ◎素晴らしい映画を視聴できてよかった。
- ◎面倒なことから逃げずに学び続けることが大事。
- ◎表示には多くの人の努力が必要と知った。
- ◎自分たちの世代がしっかりと学び行動につなげていかなければと思った。自給率が低い日本なので外国の状況にも注目していきたい。
- ◎真実を知り正しい選択をしていきたい。
- ◎毎日の食の選択が世の中を変えられる。エネルギー問題も消費者の選択にかかっていると思う。
- ◎田園風景が美しかった。淡々と語る内容が他人事ではなくシリアスなものだった。民主主義とは知る権利、小規模農家の重要性などジェーン・グードルの言葉が印象に残った。
- ◎その商品を選ぶ先にどんな未来が待っているか考えて選びたい。子供にも教えたい。
- ◎食の問題を追及するとともに美しい自然を散りばめて綺麗な映画だった。GM 問題以外にも巨大な利権と目を眩るメディアの問題は山ほどあるので、わたしたち一人一人がそれに気づくためにどうすればいいか考えさせられた。
- ◎素性の確かな食べ物を選び、持続可能な社会につながっていくような選択を続けていきたい。諦めないこと。

↓ 以下は質問・意見交換の項目に書かれていて、当日答えられなかったものです。

- 政府のやり方に透明性と誠実さを求めたい。→その通りだと思います。
- 1 人で多くの方が生活クラブの活動に興味を持って欲しい。→みんなでそのように頑張っていきましょう。
- 学校給食に自然食品を使うようにしたい。やっているとこがあったら知りたい。
→千葉県いすみ市で行なっています。
- アメリカの GM 食品の受け入れ先として日本が規制緩和を進めているのでは？ →その恐れはあると思います。



「たねと私の旅」上映会

2012 年、カリフォルニア州では、遺伝子組み換え作物の表示義務化の是非を問う住民投票が行われたが、反対多数で否決された。

その際にバイオ大手企業が巨額を投じて展開した反対 C Mの一部を作品中で見ることができる。

除草剤をたっぶり浴びた作物をもち手を挙げて歓迎する人は少数派ではあろうが、無関心な多数派にとって、大手資本とメディアが狡知を尽くして繰り広げるキャンペーンの方が、なんだか難しそうなエコロジストの主張よりは「刺さる」のであろう。

しかし、この作品には、無関心な人の心にも「刺さる」なにかがある。

食べ物の来歴を子に教えたいと、家庭菜園を続けてきた監督の母と、作物から種を採取し、その種を蒔いて再び収穫するという循環を見て育った娘が、その種を操作したり、自家採取を禁じたりする行為に疑問を持ち、取材を重ねた記録は、声高な主張より心に響く。「私たちが食べる一口は、どんな世界にしたいか、どんな農業を支持するかの選択よ」この母の言葉は、多くの人に、自らの食するものの来歴への関心を呼び覚ますだろう。

豊能ブロック 里内

私の田舎の情景を思い出させてくれたとても感慨深い映画だった。

母が毎年野菜の種から（ナス・キュウリ・大根・カボチャ・大豆・ささげ・サツマイモの種芋など）できの良い種をとっていた。特に種もみは、種もみ用の田んぼを決めて大切に育てていた。近年では、種を巡って GM の種が一部の企業に支配されている現実や、GM 表示のない食品が市場に溢れている現状にも、驚かされた。

料理の始まりは種からと、家庭菜園で野菜を作る母、その料理を食べて育った娘が遺伝子組み換え食品に疑問を感じてその背景を探ろうと淡々と語る内容が他人事ではなく、私達の日常生活にとって切実な問題提起してくれるものであった。

そして、大規模化した農業より小規模農業の必要性と可能性について語る言葉が印象的だった。子や孫の未来を守るために我々親世代が GM やゲノム編集についてしっかりと学び、地道に行動・発信してゆくことの大切さを教えてくれるものだった。

そして、食品の表示をしっかりと見て、GM 食品は買わない、NO-GM 食品を買うこと、受給率アップのために国産のものを買うそして生産者の顔の見える消費材を買って、少しでも社会を変えることが出来るように、仲間づくりに精進したいと思った。

門真ブロック 桑代